

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2001年3月8日 (08.03.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/16147 A1(51) 国際特許分類⁷: C07H 17/02, C07D
231/20, A61K 31/7056, A61P 3/04, 3/10

(21) 国際出願番号: PCT/JP00/05678

(22) 国際出願日: 2000年8月24日 (24.08.2000)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願平11/246800 1999年8月31日 (31.08.1999) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): キッセイ薬品工業株式会社 (KISSEI PHARMACEUTICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号 Nagano (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 藤倉秀紀 (FUJIKURA, Hideki) [JP/JP]; 〒390-0851 長野県松本市大字島内4152-1 モダンティバレス望月101 Nagano (JP). 西村俊洋 (NISHIMURA, Toshihiro) [JP/JP]; 〒399-8304 長野県南安曇郡穂高町大字柏原4511 Nagano (JP). 勝野健次 (KATSUNO, Kenji) [JP/JP]; 〒399-0601 長野県上伊那郡辰野町大字小野272-1 Nagano (JP). 平橋正博 (HIRATOCHI, Masahiro) [JP/JP]; 〒399-6101

長野県木曽郡日義村5029 Nagano (JP). 伊與部亮 (IY-OBE, Akira) [JP/JP]; 〒399-8302 長野県南安曇郡穂高町大字北穂高449-2 Nagano (JP). 藤岡 稔 (FUJIOKA, Minoru) [JP/JP]; 〒394-0044 長野県岡谷市湊1-6-25 Nagano (JP). 伊佐治正幸 (ISAJI, Masayuki) [JP/JP]; 〒399-0704 長野県塩尻市広丘郷原1763-189 Nagano (JP).

(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.

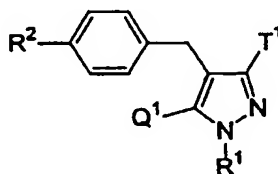
(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

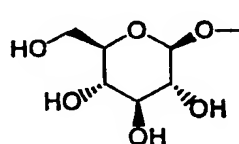
2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語」のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: GLUCOPYRANOSYLOXYPYRAZOLE DERIVATIVES, MEDICINAL COMPOSITIONS CONTAINING THE SAME AND INTERMEDIATES IN THE PRODUCTION THEREOF

(54) 発明の名称: グルコピラノシルオキシピラゾール誘導体、それを含有する医薬組成物およびその製造中間体



(I)



(A)

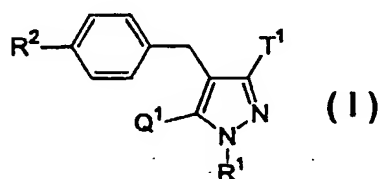
(57) Abstract: Glucopyranosyloxy-pyrazole derivatives represented by general formula (I), which have an effect of inhibiting human SGLT2 activity and are useful as preventives or remedies for diabetes, complication of diabetes or obesity, or pharmacologically acceptable salts thereof. In said formula, R¹ representshydrogen or lower alkyl; one of Q¹ and T¹ represents a group of formula (A), while the other represents lower alkyl or halogenated lower alkyl; and R² represents hydrogen, lower alkyl, lower alkoxy, lower alkylthio, halogenated lower alkyl or halogeno.

[続葉有]



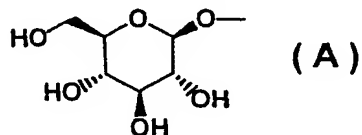
(57) 要約:

本発明は、ヒト SGLT 2 活性阻害作用を有し、糖尿病、糖尿病性合併症又は肥満症の予防又は治療剤として有用な、一般式



5

(式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^1 および T^1 はどちらか一方が式



10 で表される基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩、それを含有する医薬組成物およびその製造中間体に関するものである。

明細書

グルコピラノシルオキシピラゾール誘導体、それを含有する医薬組成物
およびその製造中間体

5

〔技術分野〕

本発明は、医薬品として有用なグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩、それを含有する医薬組成物およびその製造中間体に関するものである。

10

〔背景技術〕

糖尿病は食生活の変化や運動不足を背景とした生活習慣病の一つである。それ故、糖尿病患者には食事療法や運動療法が実施されているが、十分なコントロールや継続的实施が困難な場合、薬物療法が併用されている。現在、糖尿病治療剤としては、ビグアナイド薬、スルホニルウレア薬やインスリン抵抗性改善薬などが使用されている。しかしながら、ビグアナイド薬には乳酸アシドーシス、スルホニルウレア薬には低血糖、インスリン抵抗性改善薬には浮腫などの副作用が認められることがある上、肥満化を促進させることが懸念されている。そのため、このような問題を解消すべく新しい作用機序による糖尿病治療剤の開発が囑望されている。

20

近年、腎臓において過剰な糖の再吸収を阻害することで尿糖の排泄を促進させて血糖値を低下させる、新しいタイプの糖尿病治療薬の研究開発が推進されている (J. Clin. Invest., Vol. 79, pp. 1510-1515 (1987))。また、腎臓の近位尿細管のS1領域にSGLT2 (ナトリウム依存性グルコース輸送体2) が存在し、このSGLT2が糸球体ろ過された糖の再吸収に主として関与していることが報告されている (J. Clin. Invest., Vol. 93, pp. 397-404 (1994))。それ故、ヒトSGLT2を阻害することにより腎臓での過剰な糖の再吸収を抑制し、尿

25

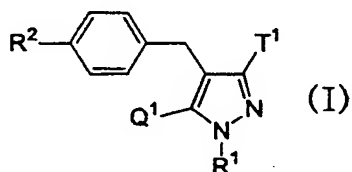
から過剰な糖を排泄させて血糖値を正常化することができる。従って、強力なヒトSGLT2活性阻害作用を有し、新しい作用機序による糖尿病治療薬の早期開発が待望される。しかも、このような尿糖排泄促進剤は過剰な血糖を尿から排泄するため、体内での糖の蓄積が減少することから、肥満化の防止効果も期待できる。

ピラゾール骨格を有する化合物として、WAY-123783が正常マウスにおいて尿糖排泄量を増加させたことが記載されているが、ヒトにおける作用効果については何ら記載されていない(J. Med. Chem. Vol. 39, pp. 3920-3928 (1996))。

10

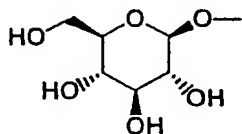
[発明の開示]

本発明は、一般式



(式中のR¹は水素原子または低級アルキル基であり、Q¹およびT¹はどちらか一方が式

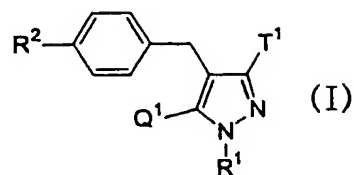
15



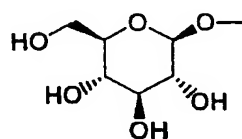
で表される基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、R²は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩に関するものである。

20

また、本発明は、一般式



(式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^1 および T^1 はどちらか一方が式

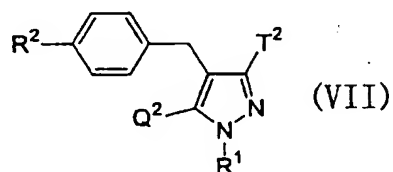


5

で表される基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理的に許容される塩を有効成分として含

10 有する医薬組成物に関するものである。

更には、本発明は、一般式

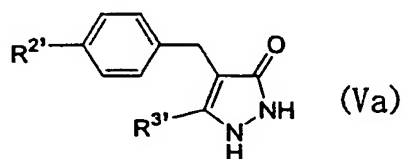


(式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^2 および T^2 はどちらか一方が 2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシ

15

ピラゾール誘導体またはその塩、及び一般式

(式中の $R^{2'}$ は低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子であり、 $R^{3'}$ は低級アルキル基である)

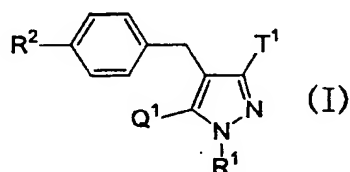


5 で表されるベンジルピラゾール誘導体またはその塩に関するものである。

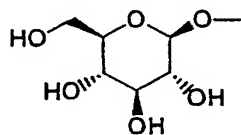
[発明を実施するための最良の形態]

本発明者らは、ヒトSGLT2活性阻害作用を有する化合物を見出すべく鋭意検討した結果、前記一般式(I)で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体が、下記の如く優れたヒトSGLT2阻害活性を示すという知見を得、
10 本発明を成すに至った。

即ち、本発明は、一般式



(式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^1 および T^1 はどちらか
15 一方が式



で表される基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオ

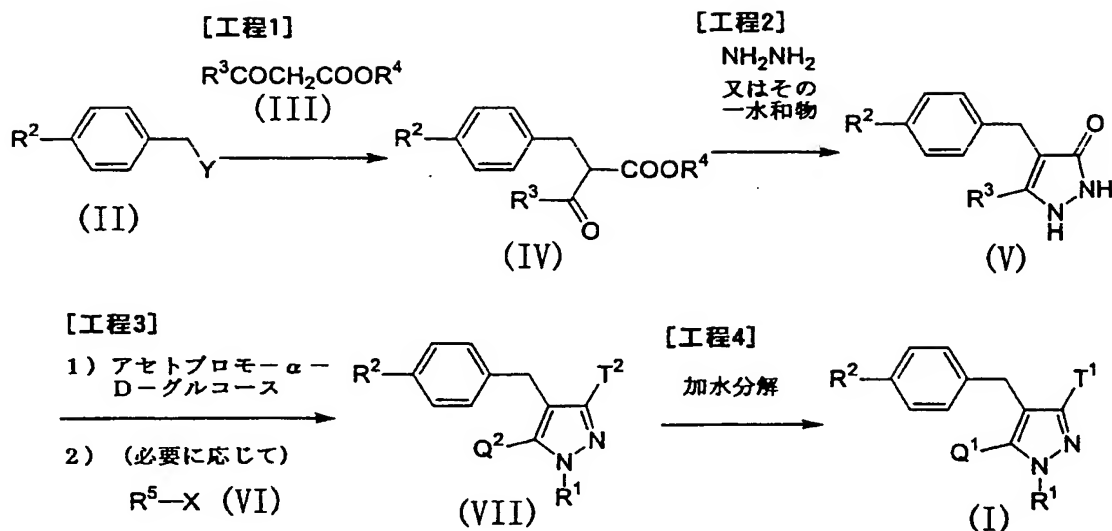
キシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩、それを含有する医薬組成物およびその製造中間体に関するものである。

- 前記一般式 (I) で表される化合物において、低級アルキル基とは、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、イソブチル基、*sec*-
- 5 ブチル基、*tert*-ブチル基、ペンチル基、イソペンチル基、ネオペンチル基、*tert*-ペンチル基、ヘキシル基等の炭素数 1～6 の直鎖状または枝分かれ状のアルキル基をいう。低級アルコキシ基とは、メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、イソプロポキシ基、ブトキシ基、イソブトキシ基、*sec*-ブ
- 10 トキシ基、*tert*-ブトキシ基、ペンチルオキシ基、イソペンチルオキシ基、ネオペンチルオキシ基、*tert*-ペンチルオキシ基、ヘキシルオキシ基等の炭素数 1～6 の直鎖状または枝分かれ状のアルコキシ基をいう。低級アルキルチオ基とは、メチルチオ基、エチルチオ基、プロピルチオ基、イソプロピルチ
- 15 オ基、ブチルチオ基、イソブチルチオ基、*sec*-ブチルチオ基、*tert*-ブチルチオ基、ペンチルチオ基、イソペンチルチオ基、ネオペンチルチオ基、*tert*-ペンチルチオ基、ヘキシルチオ基等の炭素数 1～6 の直鎖状または枝分かれ状のアルキルチオ基をいう。ハロゲン原子とはフッ素原子、塩素原子、臭素原子またはヨウ素原子をいう。ハロ低級アルキル基とは、異種または同種の 1～3 個の上記ハロゲン原子で置換された上記低級アルキル基をいう。

- 置換基 R^1 においては、好ましくは水素原子又は炭素数 1～3 の直鎖状または
- 20 枝分かれ状のアルキル基であり、更に好ましくは水素原子、エチル基、プロピル基又はイソプロピル基である。置換基 R^2 においては、好ましくは炭素数 1～4 の直鎖状または枝分かれ状のアルキル基、炭素数 1～3 の直鎖状または枝分かれ状のアルコキシ基又は炭素数 1～3 の直鎖状または枝分かれ状のアルキルチオ基であり、更に好ましくはエチル基、エトキシ基、イソプロポキシ基又は
- 25 メチルチオ基である。置換基 Q^1 及び T^1 においては、好ましくはどちらか一方が炭素数 1～3 の直鎖状または枝分かれ状のアルキル基であり、更に好ましくはどちらか一方がメチル基である。

前記一般式 (I) で表される本発明の化合物は、例えば、以下の方法に従い製

造することができる。



- (式中のXおよびYはハロゲン原子、メシルオキシ基、トシルオキシ基等の脱離基であり、 R^3 は低級アルキル基又はハロ低級アルキル基であり、 R^4 はメチル基またはエチル基であり、 R^5 は低級アルキル基であり、 Q^2 および T^2 はどちらか一方が2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^1 、 R^2 、 Q^1 および T^1 は前記と同じ意味をもつ)

工程 1

- 10 前記一般式 (I I) で表されるベンジル化合物を前記一般式 (I I I) で表されるケト酢酸エステルと、不活性溶媒中、水素化ナトリウム、tert-ブトキシカリウムなどの塩基の存在下に縮合させることにより前記一般式 (I V) で表される化合物を製造することができる。反応に用いられる不活性溶媒としては、例えば、1, 2-ジメトキシエタン、テトラヒドロフラン、N, N-ジメチルホルムアミド、それらの混合溶媒などを挙げることができる。反応温度は通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、通常1時間～1日間である。

工程 2

前記一般式 (I V) で表される化合物をヒドラジン又はその一水和物と不活性溶媒中で縮合させることにより前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体を製造することができる。反応に用いられる不活性溶媒としては、例えば、

5 トルエン、テトラヒドロフラン、クロロホルム、それらの混合溶媒などを挙げることができる。反応温度は通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、通常 1 時間～1 日間である。尚、得られた前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体は常法に従いその塩に変換した後、工程 3 において使用することもできる。

10 工程 3

- (1) 前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体において R^3 が低級アルキル基である場合、相当する前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体をアセトブロモ- α -D-グルコースを用いて、不活性溶媒中、炭酸銀などの塩基の存在下に配糖化させ、必要に応じて前記一般式 (V I) で表されるアルキル
- 15 化剤を用いて、不活性溶媒中、炭酸カリウムなどの塩基の存在下に N-アルキル化させることにより相当する前記一般式 (V I I) で表される化合物を製造することができる。配糖化反応に用いられる溶媒としては、例えば、テトラヒドロフランなどを挙げることができ、反応温度は通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、通常 1 時
- 20 間～1 日間である。N-アルキル化反応に用いられる溶媒としては、例えば、アセトニトリル、N, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン、それらの混合溶媒などを挙げることができ、反応温度は通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、通常 1 時間～1 日間である。
- 25 (2) 前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体において R^3 がハロ低級アルキル基である場合、相当する前記一般式 (V) で表されるピラズロン誘導体をアセトブロモ- α -D-グルコースを用いて、不活性溶媒中、炭酸カリウムなどの塩基の存在下に配糖化させ、必要に応じて前記一般式 (V I) で表され

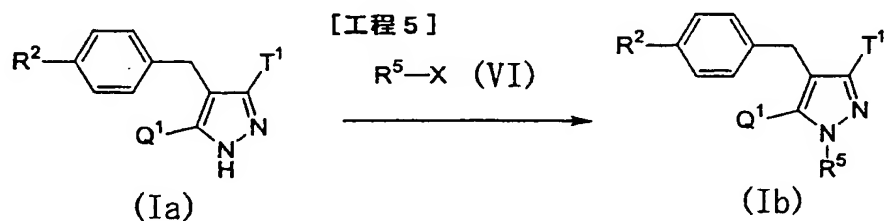
るアルキル化剤を用いて、不活性溶媒中、炭酸カリウムなどの塩基の存在下に
 N-アルキル化させることにより相当する前記一般式(VII)で表される化
 合物を製造することができる。配糖化反応に用いられる溶媒としては、例えば、
 アセトニトリル、テトラヒドロフランなどを挙げることができ、反応温度は通
 常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度など
 5 により異なるが、通常1時間～1日間である。N-アルキル化反応に用いられ
 る溶媒としては、例えば、アセトニトリル、N,N-ジメチルホルムアミド、
 テトラヒドロフラン、それらの混合溶媒などを挙げることができ、反応温度は
 通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度な
 10 どにより異なるが、通常1時間～1日間である。

尚、得られた前記一般式(VII)で表される化合物は常法に従いその塩に
 変換した後、工程4において使用することもできる。

工程4

前記一般式(VII)で表される化合物をアルカリ加水分解させることによ
 15 り本発明の化合物(I)を製造することができる。反応に用いられる溶媒とし
 ては、例えば、メタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、水、それらの
 混合溶媒などを挙げることができ、塩基としては、例えば、水酸化ナトリウム、
 ナトリウムエトキシドなどを挙げることができる。反応温度は通常0℃～室温
 であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、
 20 通常30分間～6時間である。

前記一般式(I)で表される本発明の化合物の内、置換基 R^1 が低級アルキル
 基である化合物は、以下の方法に従い製造することもできる。



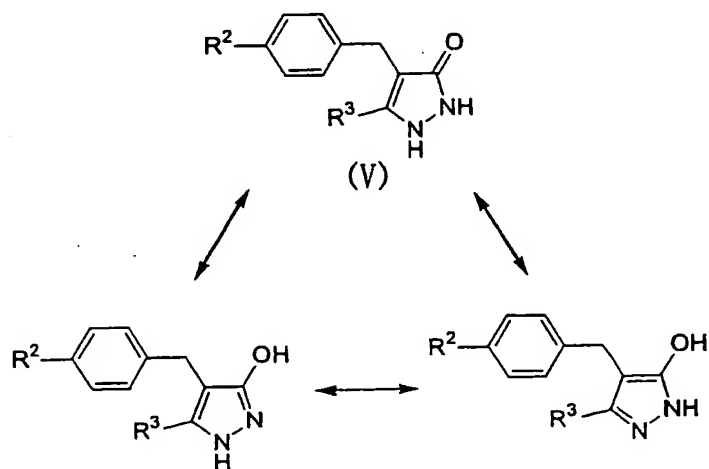
(式中の Q^1 、 R^2 、 R^5 、 T^1 および X は前記と同じ意味をもつ)

工程 5

- 前記一般式 (I a) で表される本発明の化合物を前記一般式 (V I) で表されるN-アルキル化剤を用いて、不活性溶媒中、炭酸カリウム、炭酸セシウムなどの塩基の存在下、必要に応じ触媒量のヨウ化ナトリウムの存在下にN-アルキル化させることにより本発明の前記一般式 (I b) で表される化合物を製造することができる。反応に用いられる不活性溶媒としては、例えば、N, N-ジメチルホルムアミド、ジメトキシエタン、ジメチルスルホキシド、テトラヒドロフラン、エタノール、それらの混合溶媒などを挙げることができる。反応温度は通常室温～還流温度であり、反応時間は使用する原料物質や溶媒、反応温度などにより異なるが、通常10分～1日間である。

- 前記製造方法において用いられる前記一般式 (V I I) で表される化合物およびその塩は、本発明の前記一般式 (I) で表される化合物の製造中間体として有用な化合物である。前記一般式 (V I I) で表される化合物においては、本発明の前記一般式 (I) で表される化合物と同様、置換基 Q^2 及び T^2 のどちらか一方が炭素数1～3の直鎖状または枝分かれ状のアルキル基である化合物が好ましく、どちらか一方がメチル基である化合物が更に好ましい。

また、前記一般式 (V) で表される化合物には、以下に示す3種類の互変異性体が存在し、反応条件の相違により状態が変化する。



(式中の R^2 および R^3 は前記と同じ意味をもつ)

前記一般式 (V) で表される化合物およびその塩は、本発明の前記一般式 (I) の化合物の製造中間体として有用な化合物である。前記一般式 (V) で表される化合物においては、本発明の前記一般式 (I) で表される化合物と同様、置換基 R^3 が炭素数1~3の直鎖状または枝分かれ状のアルキル基である化合物が好ましく、メチル基である化合物が更に好ましい。

前記製造方法において得られる本発明の前記一般式 (I) で表される化合物は、慣用の分離手段である分別再結晶法、クロマトグラフィーを用いた精製法、溶媒抽出法等により単離精製することができる。

10 本発明の前記一般式 (I) で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体は、常法により、その薬理学的に許容される塩とすることができる。このような塩としては、塩酸、臭化水素酸、ヨウ化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸などの鉱酸との酸付加塩、ギ酸、酢酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、プロピオン酸、クエン酸、コハク酸、酒石酸、フマル酸、酪酸、シュウ酸、マロン酸、マレイン酸、乳酸、リンゴ酸、炭酸、グルタミン酸、アスパラギン酸等の有機酸との酸付加塩、ナトリウム塩、カリウム塩等の無機塩基との塩を挙げることができる。

本発明の前記一般式 (I) で表される化合物には、水やエタノール等の医薬品として許容される溶媒との溶媒和物も含まれる。

20 本発明の前記一般式 (I) で表される化合物は、優れたヒトSGLT2活性阻害作用を有しており、糖尿病、糖尿病性合併症、肥満症などの予防または治療剤として非常に有用である。例えば、下記のヒトSGLT2活性阻害作用測定試験において、本発明の化合物は強力なヒトSGLT2活性阻害作用を発揮した。一方、WAY-123783はヒトSGLT2活性阻害作用が極めて弱く、ヒトSGLT2活性阻害剤として満足な効果は期待できるものではない。

25 本発明の医薬品組成物を実際の治療に用いる場合、用法に応じ種々の剤型のものが使用される。このような剤型としては例えば、散剤、顆粒剤、細粒剤、ドライシロップ剤、錠剤、カプセル剤、注射剤、液剤、軟膏剤、坐剤、貼付剤

などを挙げることができ、経口または非経口的に投与される。

- これらの医薬品組成物は、その剤型に応じ調剤学上使用される手法により適当な賦形剤、崩壊剤、結合剤、滑沢剤、希釈剤、緩衝剤、等張化剤、防腐剤、湿潤剤、乳化剤、分散剤、安定化剤、溶解補助剤などの医薬品添加物と適宜混合または希釈・溶解し、常法に従い調剤することにより製造することができる。
- 5 本発明の医薬品組成物を実際の治療に用いる場合、その有効成分である前記一般式（I）で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩の投与量は患者の年齢、性別、体重、疾患および治療の程度等により適宜決定されるが、経口投与の場合成人1日当たり概ね0.1～1000mgの範囲で、非経口投与の場合は、成人1日当たり概ね0.01～300mgの範囲で、一回または
- 10 数回に分けて適宜投与することができる。

〔実施例〕

- 本発明の内容を以下の参考例、実施例および試験例でさらに詳細に説明する
- 15 が、本発明はその内容に限定されるものではない。

実施例1

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

- 20 4-イソプロポキシベンジルアルコール（0.34g）のテトラヒドロフラン（6ml）溶液にトリエチルアミン（0.28ml）およびメタンスルホンクロリド（0.16ml）を加え、室温にて30分間攪拌し、不溶物をろ去した。得られたメタンスルホン酸4-イソプロポキシベンジルのテトラヒドロフラン溶液を水素化ナトリウム（60%, 81mg）およびアセト酢酸メチル
- 25 （0.20ml）の1, 2-ジメトキシエタン（10ml）懸濁液に加え、80℃にて一晚攪拌した。反応混合物を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注ぎ、ジエチルエーテルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、残渣をトルエン（5ml）に溶解

- し、無水ヒドラジン (0.19 ml) を加え、80℃にて一晩攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (溶出溶媒: 塩化メチレン/メタノール=10/1) にて精製することにより 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン (95 mg) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.22 (6H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 1.99 (3H, s), 3.45 (2H, s), 4.40-4.60 (1H, m), 6.65-6.80 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

10 実施例 2

1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-プロピルフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-プロピルベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

- 15 $^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

0.75-0.95 (3H, m), 1.45-1.65 (2H, m), 1.99 (3H, s), 2.40-2.55 (2H, m), 3.32 (2H, s), 6.95-7.10 (4H, m)

実施例 3

- 20 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソブチルフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-イソブチルベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

- 25 0.83 (6H, d, $J=6.6\text{Hz}$), 1.70-1.85 (1H, m), 1.99 (3H, s), 2.30-2.45 (2H, m), 3.50 (2H, s), 6.90-7.10 (4H, m)

実施例 4

1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-プロポキシフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-プロポキシベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

5 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

0.95 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.60-1.75 (2H, m), 1.98 (3H, s), 3.46 (2H, s), 3.75-3.90 (2H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

実施例5

10 4-[(4-エトキシフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-エトキシベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

15 1.20-1.35 (3H, m), 1.98 (3H, s), 3.46 (2H, s), 3.85-4.05 (2H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

実施例6

20 1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-トリフルオロメチルフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-トリフルオロメチルベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

2.02 (3H, s), 3.64 (2H, s), 7.30-7.45 (2H, m), 7.55-7.70 (2H, m)

25

実施例7

4-[(4-tert-ブチルフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-tert-ブチルベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.24 (9H, s), 2.01 (3H, s), 3.49 (2H, s), 7.00-7.15 (2H, m), 7.15-7.30 (2H, m)

実施例8

4-[(4-ブトキシフェニル)メチル]-1,2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-ブトキシベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

0.91 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.30-1.50 (2H, m), 1.55-1.75 (2H, m), 1.98 (3H, s), 3.46 (2H, s), 3.80-3.95 (2H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

実施例9

1,2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-(メチルチオ)ベンジルアルコールを用いて、実施例1と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.99 (3H, s), 2.42 (3H, s), 3.50 (2H, s), 7.05-7.20 (4H, m)

実施例10

5-エチル-1,2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロポキシベンジルアルコールの代わりに4-メチルチオベンジルアルコール、アセト酢酸メチルの代わりに3-ケト吉草酸メチルを用いて、実

施例 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.02 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 2.39 (2H, q, $J=7.6\text{Hz}$), 2.42 (3H, s), 3.51 (2H, s),
7.05-7.20 (4H, m)

5

実施例 1 1

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

水素化ナトリウム (60%, 40mg) の 1, 2-ジメトキシエタン (1m
10 1) 懸濁液にアセト酢酸メチル (0.11ml)、4-イソプロピルベンジルクロ
ロリド (0.17g) 及び触媒量のヨウ化ナトリウムを加え、80℃にて一晩
撹拌した。反応混合物を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注ぎ、ジエチルエー
テルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、無水硫酸マグネシウムで
乾燥した。溶媒を減圧留去し、残渣をトルエン (1ml) に溶解し、無水ヒド
15 ラジン (0.094ml) を加え、80℃にて一晩撹拌した。溶媒を減圧留去
し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (溶出溶媒: 塩化メチレン/
メタノール=10/1) にて精製することにより 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-
イソプロピルフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン
(0.12g) を得た。

20 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.16 (6H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 2.01 (3H, s), 2.70-2.90 (1H, m), 3.49 (2H, s),
6.95-7.20 (4H, m)

実施例 1 2

4-[(4-エチルフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロピルベンジルクロリドの代わりに 4-エチルベンジルクロリド
を用いて、実施例 1 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.13 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 2.00 (3H, s), 2.45-2.60 (2H, m), 3.49 (2H, s),
7.00-7.15 (4H, m)

5 実施例 13

1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-メチルフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オン

4-イソプロピルベンジルクロリドの代わりに4-メチルベンジルブロミドを用いて、実施例11と同様の方法で標記化合物を合成した。

10 ^1H -NMR (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.98 (3H, s), 2.23 (3H, s), 3.48 (2H, s), 6.95-7.10 (4H, m)

参考例 1

4-ベンジル-1, 2-ジヒドロ-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オン

15

アセト酢酸メチルの代わりにトリフルオロアセト酢酸エチル、4-イソプロピルベンジルクロリドの代わりにベンジルブロミドを用いて、実施例11と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

20 3.73 (2H, s), 7.05-7.35 (5H, m), 12.50-13.10 (1H, brs)

実施例 14

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

25 4-イソプロピルベンジルクロリドの代わりに4-メトキシベンジルブロミドを用いて、実施例11と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

1.99 (3H, s), 3.47 (2H, s), 3.69 (3H, s), 6.75-6.85 (2H, m), 7.00-7.10 (2H,

m), 8.70-11.70 (2H, br)

参考例 2

4-ベンジル-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

- 5 4-イソプロピルベンジルクロリドの代わりにベンジルブロミドを用いて、
実施例 11 と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, DMSO- d_6) δ ppm:

2.00 (3H, s), 3.54 (2H, s), 7.05-7.30 (5H, s)

10 実施例 15

4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

- 15 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン (46 mg)、アセトブロモ- α -D-グルコース (99 mg) 及び 4 Å モレキュラシーブスのテトラヒドロフラン (3 ml) 懸濁液に炭酸銀 (66 mg) を加え、反応容器を遮光し 65 °C にて一晚攪拌した。反応混合物をアミノプロピルシリカゲルカラムクロマトグラフィー (溶出溶媒: テトラヒドロフラン) にて精製した。さらに分取用薄層クロマトグラフィー (展開溶媒: 酢酸エチル/ヘキサン = 2/1) にて精製することにより
- 20 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール (42 mg) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CDCl₃) δ ppm:

- 25 1.25-1.35 (6H, m), 1.88 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.05 (3H, s), 2.10 (3H, s), 3.45-3.65 (2H, m), 3.80-3.90 (1H, m), 4.13 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 4.40-4.55 (1H, m), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 6.95-7.05 (2H, m)

実施例 16

5-メチル-4-[(4-プロピルフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

5 ール

1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1,2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-プロピルフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

10 ¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

0.91 (3H, t, J=7.3Hz), 1.50-1.65 (2H, m), 1.86 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.05 (3H, s), 2.10 (3H, s), 2.45-2.55 (2H, m), 3.55 (1H, d, J=15.8Hz), 3.63 (1H, d, J=15.8Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 4.13 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.30 (1H, dd, J=3.9, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m),

15 7.00-7.20 (4H, m)

実施例 17

4-[(4-イソブチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラ

20 ゾール

1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソブチルフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

25 ¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

0.87 (6H, d, J=6.6Hz), 1.70-1.85 (1H, m), 1.87 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.10 (3H, s), 2.40 (2H, d, J=7.2Hz), 3.56 (1H, d, J=15.8Hz), 3.63 (1H, d, J=15.8Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 4.14 (1H, dd, J=2.3,

12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.95-7.10 (4H, m)

実施例 18

- 5 5-メチル-4-[(4-プロポキシフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-プロポキシフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

1.01 (3H, t, J=7.4Hz), 1.70-1.85 (2H, m), 1.89 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.10 (3H, s), 3.53 (1H, d, J=15.7Hz), 3.59 (1H, d, J=15.7Hz), 3.80-3.95 (3H, m), 4.14 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

実施例 19

- 20 4-[(4-エトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-[(4-エトキシフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

1.38 (3H, t, J=7.0Hz), 1.89 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H,

s), 2.10 (3H, s), 3.53 (1H, d, J=15.8Hz), 3.59 (1H, d, J=15.8Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 3.98 (2H, q, J=7.0Hz), 4.13 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4), 5.15-5.30 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

5

実施例 20

5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-トリフルオロメチルフェニル)メチル]-1H-ピラゾール

- 10 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-トリフルオロメチルフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

- 15 1.85 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.14 (3H, s), 3.65 (1H, d, J=15.9Hz), 3.71 (1H, d, J=15.9Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 4.14 (1H, dd, J=2.4, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 5.15-5.40 (3H, m), 5.55-5.65 (1H, m), 7.20-7.30 (2H, m), 7.45-7.55 (2H, m)

20 実施例 21

4-[(4-tert-ブチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

- 25 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-[(4-tert-ブチルフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.27 (9H, s), 1.84 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.14 (3H, s), 3.56 (1H, d, J=15.8Hz), 3.64 (1H, d, J=15.8Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 4.13 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 5.15-5.30 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 7.00-7.10 (2H, m), 7.20-7.30 (2H, m)

5

実施例 2 2

4-[(4-ブトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

- 10 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-[(4-ブトキシフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例 1 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

- 15 0.96 (3H, t, J=7.4Hz), 1.40-1.55 (2H, m), 1.65-1.80 (2H, m), 1.88 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.10 (3H, s), 3.52 (1H, d, J=15.8Hz), 3.59 (1H, d, J=15.8Hz), 3.80-3.90 (1H, m), 3.91 (2H, t, J=6.5Hz), 4.13 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.31 (1H, dd, J=4.0, 12.4Hz), 5.15-5.30 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 6.95-7.10 (2H, m)

20

実施例 2 3

5-メチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

- 25 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-5-メチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例 1 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.88 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.07 (3H, s), 2.12 (3H, s), 2.44
(3H, s), 3.50-3.65 (2H, m), 3.80-3.90 (1H, m), 4.13 (1H, dd, $J=2.4, 12.4\text{Hz}$),
4.31 (1H, dd, $J=4.1, 12.4\text{Hz}$), 5.15-5.30 (3H, m), 5.55-5.65 (1H, m),
5 7.00-7.10 (2H, m), 7.10-7.20 (2H, m), 8.65-8.85 (1H, brs)

実施例 24

5-エチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラ
10 ゾール

1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに5-エチル-1,2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

15 ^1H -NMR (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.13 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 1.88 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.44 (3H, s), 2.45-2.55 (2H, m), 3.50-3.70 (2H, m), 3.80-3.90 (1H, m),
4.05-4.20 (1H, m), 4.31 (1H, dd, $J=4.0, 12.4\text{Hz}$), 5.15-5.35 (3H, m),
5.55-5.65 (1H, m), 7.00-7.10 (2H, m), 7.10-7.20 (2H, m), 8.80-9.20 (1H,
20 brs)

実施例 25

4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラ
25 ゾール

1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1,2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オン

を用いて、実施例 15 と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.20 (6H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 1.85 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.13 (3H, s), 2.75-2.90 (1H, m), 3.56 (1H, d, $J=15.8\text{Hz}$), 3.63 (1H, d, $J=15.8\text{Hz}$), 3.80-3.90 (1H, m), 4.05-4.20 (1H, m), 4.31 (1H, dd, $J=4.0$, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m), 8.70-9.30 (1H, brs)

実施例 26

10 4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オン (2.0 g) のアセトニトリル (100 ml) 溶液にアセトブロモ- α -D-グルコース (3.1 g) および炭酸カリウム (1.1 g) を加え、室温にて一晩攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (溶出溶媒: ヘキサン/酢酸エチル = 1/1) で精製することにより 4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール (2.0 g) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.91 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.04 (3H, s), 2.09 (3H, s), 2.45 (3H, s), 3.73 (2H, s), 3.75-3.90 (1H, m), 4.15-4.35 (2H, m), 5.15-5.65 (4H, m), 7.00-7.20 (4H, m)

実施例 27

4-ベンジル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グル
コピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

- 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフル
ルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-ベンジル-1, 2-
5-ジヒドロ-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、
実施例26と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm:

1.89 (3H, s), 2.02 (3H, s), 2.04 (3H, s), 2.08 (3H, s), 3.70-3.90 (3H, m),
4.15-4.30 (2H, m), 5.10-5.50 (4H, m), 7.10-7.30 (5H, m)

10

実施例28

4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O
-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-
1H-ピラゾール

15. 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフル
ルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-4-
-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-3H-ピラ
ゾール-3-オンを用いて、実施例26と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (400MHz, CDCl₃) δ ppm:

- 20 1.93 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.05 (3H, s), 2.09 (3H, s), 3.65-3.75 (2H, m),
3.77 (3H, s), 3.75-3.90 (1H, m), 4.15-4.35 (2H, m), 5.10-5.45 (4H, m),
6.75-6.85 (2H, m), 7.00-7.15 (2H, m)

実施例29

- 25 4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6
-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾ
ール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メ

チル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm:

- 5 1.89 (3H, s), 2.02 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.05 (3H, s), 2.10 (3H, s), 3.45-3.65 (2H, m), 3.76 (3H, s), 3.80-3.90 (1H, m), 4.11 (1H, dd, $J=2.2$, 12.4Hz), 4.30 (1H, dd, $J=4.0$, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.00-7.10 (2H, m)

10 実施例30

4-ベンジル-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール

- 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-ベンジル-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて、実施例15と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm:

- 1.86 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.11 (3H, s), 3.59 (1H, d, $J=15.8\text{Hz}$), 3.66 (1H, d, $J=15.8\text{Hz}$), 3.80-3.90 (1H, m), 4.11 (1H, dd, $J=2.3$, 12.4Hz), 4.30 (1H, dd, $J=4.0$, 12.4Hz), 5.15-5.30 (3H, m), 5.50-5.65 (1H, m), 7.05-7.30 (5H, m), 8.75-9.55 (1H, brs)

実施例31

- 4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-1, 5-ジメチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)ピラゾール

4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラ

ゾール (18 mg)、炭酸カリウム (14 mg) およびヨウ化メチル (4.7 mg) のアセトニトリル (2 ml) 懸濁液を 75℃ にて一晩攪拌した。反応混合物をセライトろ過し、ろ液の溶媒を減圧留去した。残渣を分取用薄層クロマトグラフィー (展開溶媒: ベンゼン/アセトン = 2/1) にて精製することにより 4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-1,5-ジメチル-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)ピラゾール (4 mg) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.90 (3H, s), 2.01 (3H, s), 2.03 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.07 (3H, s),
 3.45-3.60 (2H, m), 3.60 (3H, s), 3.76 (3H, s), 3.80-3.90 (1H, m), 4.13 (1H, dd, $J=2.4, 12.4\text{Hz}$), 4.29 (1H, dd, $J=4.1, 12.4\text{Hz}$), 5.15-5.30 (3H, m), 5.50-5.60 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.00-7.10 (2H, m)

実施例 32

1-メチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチルピラゾール

4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール (30 mg)、炭酸カリウム (8.0 mg) およびヨウ化メチル (8.2 mg) のテトラヒドロフラン (1 ml) 懸濁液を 75℃ にて一晩攪拌した。反応混合物をセライトろ過し、ろ液の溶媒を減圧留去した。残渣を分取用薄層クロマトグラフィー (展開溶媒: 塩化メチレン/酢酸エチル = 5/1) にて精製することにより 1-メチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチルピラゾール (13 mg) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CDCl_3) δ ppm:

1.89 (3H, s), 2.02 (3H, s), 2.04 (3H, s), 2.07 (3H, s), 2.44 (3H, s),

3.65-3.95 (6H, m), 4.14 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.29 (1H, dd, J=4.3, 12.4Hz), 5.15-5.35 (3H, m), 5.50-5.65 (1H, m), 7.00-7.20 (4H, m)

実施例 3 3

- 5 1-エチル-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチルピラゾール

ヨウ化メチルの代わりにヨウ化エチルを用いて、実施例 3 2 と同様の方法で標記化合物を合成した。

- 10 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm :
1.40 (3H, t, J=7.2Hz), 1.90 (3H, s), 2.02 (3H, s), 2.04 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.44 (3H, s), 3.72 (2H, s), 3.80-3.90 (1H, m), 4.05-4.20 (3H, m), 4.27 (1H, dd, J=4.5, 12.4Hz), 5.10-5.35 (3H, m), 5.55-5.65 (1H, m), 7.00-7.10 (2H, m), 7.10-7.20 (2H, m)

15

実施例 3 4

- 4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-1-プロピル-3-(2,3,4,6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチルピラゾール

- 20 ヨウ化メチルの代わりにヨウ化プロピルを用いて、実施例 3 2 と同様の方法で標記化合物を合成した。

- $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm :
0.92 (3H, t, J=7.4Hz), 1.75-1.90 (2H, m), 1.89 (3H, s), 2.02 (3H, s), 2.04 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.44 (3H, s), 3.72 (2H, s), 3.80-3.90 (1H, m),
25 3.90-4.05 (2H, m), 4.12 (1H, dd, J=2.3, 12.4Hz), 4.27 (1H, dd, J=4.5, 12.4Hz), 5.10-5.35 (3H, m), 5.55-5.65 (1H, m), 7.00-7.10 (2H, m), 7.10-7.20 (2H, m)

実施例 35

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾール

4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾール (61 mg) のエタノール (3 ml) 溶液に 1 N 水酸化ナトリウム水溶液 (0.53 ml) を加え、室温にて 2 時間攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣を ODS 固相抽出法 (洗浄溶媒: 蒸留水, 溶出溶媒: メタノール) により精製して 3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾール (39 mg) を得た。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm:

1.26 (6H, d, J=5.9 Hz), 2.05 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.75-3.90 (1H, m), 4.45-4.60 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.00-7.15 (2H, m)

15

実施例 36

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-4-[(4-プロピルフェニル)メチル]-1H-ピラゾール

4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに 5-メチル-4-[(4-プロピルフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例 35 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm:

0.91 (3H, t, J=7.5 Hz), 1.50-1.65 (2H, m), 2.05 (3H, s), 2.45-2.60 (2H, m), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.83 (1H, d, J=11.9 Hz), 5.00-5.10 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m)

25

実施例 3 7

3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-イソブチルフェニル) メチル] - 5-メチル-1H-ピラゾール

- 5 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに4 - [(4-イソブチルフェニル) メチル] - 5-メチル-3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物
- 10 を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CD₃OD) δ ppm :

0.87 (6H, d, J=6.6Hz), 1.70-1.90 (1H, m), 2.04 (3H, s), 2.41 (2H, d, J=7.1Hz), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.90 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.95-7.15 (4H, m)

15

実施例 3 8

3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5-メチル-4 - [(4-プロポキシフェニル) メチル] - 1H-ピラゾール

- 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに5-メチル-4 - [(4-プロポキシフェニル) メチル] - 3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物
- 20 を合成した。

25 ¹H-NMR (500MHz, CD₃OD) δ ppm :

1.02 (3H, t, J=7.4Hz), 1.65-1.80 (2H, m), 2.05 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.60-3.75 (3H, m), 3.80-3.90 (3H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

実施例 39

4-[(4-エトキシフェニル)メチル]-3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-1H-ピラゾール

- 5 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-エトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を
10 合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CD_3OD) δ ppm :

1.34 (3H, t, $J=7.0\text{Hz}$), 2.05 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.60-3.75 (3H, m), 3.80-3.90 (1H, m), 3.97 (2H, q, $J=7.0\text{Hz}$), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

15

実施例 40

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-4-[(4-トリフルオロメチルフェニル)メチル]-1H-ピラゾール

- 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-トリフルオロメチルフェニル)メチル]-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

25 $^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CD_3OD) δ ppm :

2.08 (3H, s), 3.20-3.40 (4H, m), 3.67 (1H, dd, $J=5.0, 11.9\text{Hz}$), 3.75-3.90 (3H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.30-7.45 (2H, m), 7.45-7.60 (2H, m)

実施例 4 1

4-[(4-tert-ブチルフェニル)メチル]-3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-1H-ピラゾール

- 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-tert-ブチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

- 10 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:
1.28 (9H, s), 2.06 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.60-3.90 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.05-7.15 (2H, m), 7.20-7.30 (2H, m)

実施例 4 2

- 15 4-[(4-ブトキシフェニル)メチル]-3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-1H-ピラゾール

- 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-ブトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

- 25 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:
0.97 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.40-1.55 (2H, m), 1.65-1.80 (2H, m), 2.05 (3H, s), 3.30-3.45 (4H, m), 3.60-3.75 (3H, m), 3.83 (1H, d, $J=12.0\text{Hz}$), 3.91 (2H, t, $J=6.4\text{Hz}$), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

実施例 4 3

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-4-[(4-メチルチ
オフエニル)メチル]-1H-ピラゾール

- 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3,
 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-
 5 ピラゾールの代わりに5-メチル-4-[(4-メチルチオフエニル)メチル]
 -3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシル
 オキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物
 を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CD₃OD) δ ppm:

- 10 2.06 (3H, s), 2.42 (3H, s), 3.20-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.80-3.90
 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.05-7.20 (4H, m)

実施例44

- 5-エチル-3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メチルチ
 15 オフエニル)メチル]-1H-ピラゾール

- 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3,
 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-
 ピラゾールの代わりに5-エチル-4-[(4-メチルチオフエニル)メチル]
 -3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシル
 20 オキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物
 を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CD₃OD) δ ppm:

- 1.06 (3H, t, J=7.6Hz), 2.42 (3H, s), 2.47 (2H, q, J=7.6Hz), 3.25-3.45 (4H,
 m), 3.60-3.80 (3H, m), 3.80-3.90 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.10-7.20 (4H,
 25 m)

実施例45

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロピルフェニル)

メチル] - 5 - メチル - 1H - ピラゾール

- 4 - [(4 - イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (2, 3, 4, 6 - テトラ - O - アセチル - β - D - グルコピラノシルオキシ) - 1H - ピラゾールの代わりに 4 - [(4 - イソプロピルフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (2, 3, 4, 6 - テトラ - O - アセチル - β - D - グルコピラノシルオキシ) - 1H - ピラゾールを用いて、実施例 35 と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

- 1.20 (6H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 2.05 (3H, s), 2.75-2.90 (1H, m), 3.25-3.45 (4H, m),
 10 3.55-3.90 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m)

実施例 46

3 - (β - D - グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4 - メチルチオフェニル) メチル] - 5 - トリフルオロメチル - 1H - ピラゾール

- 15 4 - [(4 - イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (2, 3, 4, 6 - テトラ - O - アセチル - β - D - グルコピラノシルオキシ) - 1H - ピラゾールの代わりに 4 - [(4 - メチルチオフェニル) メチル] - 3 - (2, 3, 4, 6 - テトラ - O - アセチル - β - D - グルコピラノシルオキシ) - 5 - トリフルオロメチル - 1H - ピラゾールを用いて、実施例 35 と同様の方法
 20 で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

- 2.42 (3H, s), 3.25-3.50 (4H, m), 3.69 (1H, dd, $J=4.9, 12.0\text{Hz}$), 3.75-3.90 (3H, m), 4.90-5.10 (1H, m), 7.10-7.20 (4H, m)

25 実施例 47

4 - ベンジル - 3 - (β - D - グルコピラノシルオキシ) - 5 - トリフルオロメチル - 1H - ピラゾール

- 4 - [(4 - イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (2, 3,

4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-ベンジル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

- 5 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:
 3.25-3.45 (4H, m), 3.67 (1H, dd, $J=5.3, 12.0\text{Hz}$), 3.80-3.95 (3H, m), 4.97 (1H, d, $J=7.4\text{Hz}$), 7.05-7.25 (5H, m)

実施例48

- 10 3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール
 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。
- 15 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:
 3.25-3.45 (4H, m), 3.67 (1H, d, $J=5.4, 12.1\text{Hz}$), 3.73 (3H, s), 3.75-3.90 (3H, m), 4.90-5.00 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)
- 20

実施例49

- 3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾール
 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-*O*-アセチル- β -D-グルコピラノシルオ
- 25

キシ) - 1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

2.04 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.73 (3H, s), 3.80-3.90
5 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.75-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

実施例50

4-ベンジル-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-1H-ピラゾール

10 4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-ベンジル-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

15 $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

2.05 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.60-3.90 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m),
7.05-7.25 (5H, m)

実施例51

20 3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-1, 5-ジメチルピラゾール

4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-1, 5-ジメチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

2.06 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.70 (6H, m), 3.73 (3H, s), 3.75-3.90 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

実施例 5 2

5 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1-メチル-4 - [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 5-トリフルオロメチルピラゾール

4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに1-メチル-4 - [(4-メチルチオフェニル) メチル]
10 - 3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5-トリフルオロメチルピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

2.42 (3H, s), 3.30-3.50 (4H, m), 3.69 (1H, dd, J=4.7, 12.0Hz), 3.75-3.90
15 (6H, m), 5.25-5.35 (1H, m), 7.05-7.20 (4H, m)

実施例 5 3

1-エチル-3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 5-トリフルオロメチルピラゾール

20 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに1-エチル-4 - [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 3 - (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5-トリフルオロメチルピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の
25 方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

1.38 (3H, t, J=7.1Hz), 2.42 (3H, s), 3.30-3.50 (4H, m), 3.60-3.75 (1H, m), 3.75-3.90 (1H, m), 4.14 (2H, q, J=7.1Hz), 5.25-5.35 (1H, m), 7.05-7.20 (4H,

m)

実施例 5 4

- 3- (β -D-グルコピラノシルオキシ) - 4- [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 1-プロピル- 5-トリフルオロメチルピラゾール
- 4- [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル- 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに 4- [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 1-プロピル- 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ) - 5-トリフルオロメチルピラゾールを用いて、実施例 3 5 と同様の方法で標記化合物を合成した。

- $^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:
- 0.90 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.75-1.90 (2H, m), 2.42 (3H, s), 3.30-3.50 (4H, m), 3.69 (1H, dd, $J=4.9, 12.0\text{Hz}$), 3.75-3.90 (3H, m), 4.00-4.10 (2H, m), 5.25-5.35 (1H, m), 7.05-7.20 (4H, m)

実施例 5 5

- 3- (β -D-グルコピラノシルオキシ) - 5-メチル- 4- [(4-メチルフェニル) メチル] - 1H-ピラゾール
- 1, 2-ジヒドロ- 4- [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル- 3H-ピラゾール- 3-オンの代わりに 1, 2-ジヒドロ- 5-メチル- 4- [(4-メチルフェニル) メチル] - 3H-ピラゾール- 3-オンを用いて実施例 1 5 と同様の方法で 5-メチル- 4- [(4-メチルフェニル) メチル] - 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールを合成した。ついで 4- [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル- 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ) - 1H-ピラゾールの代わりに 5-メチル- 4- [(4-メチルフェニル) メチル] - 3- (2, 3, 4, 6-テトラ

ーOーアセチルーβ-D-グルコピラノシルオキシ)ー1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

2.04 (3H, s), 2.26 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.90 (4H, m), 5.00-5.10

5 (1H, m), 6.95-7.15 (4H, m)

実施例56

4-[(4-エチルフェニル)メチル]-3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-5-メチル-1H-ピラゾール

- 10 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-[(4-エチルフェニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-メチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて実施例15と同様の方法で4-[(4-エチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを合成した。ついで4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-エチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

1.18 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 2.04 (3H, s), 2.57 (2H, q, $J=7.6\text{Hz}$), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.90 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.95-7.20 (4H, m)

25 実施例57

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メチルフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフ

ルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-4-
 - [(4-メチルフェニル) メチル] - 5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾ
 ール-3-オンを用いて実施例26と同様の方法で4- [(4-メチルフェニ
 ル) メチル] - 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グル
 コピラノシルオキシ) - 5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを合成し
 5 た。ついで4- [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3-
 (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)
 - 1H-ピラゾールの代わりに4- [(4-メチルフェニル) メチル] - 3- (2,
 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5
 10 -トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法
 で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500MHz, CD₃OD) δ ppm:

2.25 (3H, s), 3.20-3.45 (4H, m), 3.55-3.70 (1H, m), 3.70-3.90 (3H, m),
 4.80-4.95 (1H, m), 6.90-7.15 (4H, m)

15

実施例58

4- [(4-エチルフェニル) メチル] - 3- (β-D-グルコピラノシルオキ
 シ) - 5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4- [(4-メチルチオフェニル) メチル] - 5-トリフ
 20 ルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4- [(4-エチルフェ
 ニル) メチル] - 1, 2-ジヒドロ-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾ
 ール-3-オンを用いて実施例26と同様の方法で4- [(4-エチルフェニ
 ル) メチル] - 3- (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グル
 コピラノシルオキシ) - 5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを合成し
 25 た。ついで4- [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5-メチル-3-
 (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)
 - 1H-ピラゾールの代わりに4- [(4-エチルフェニル) メチル] - 3- (2,
 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5

ートリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CD_3OD) δ ppm:

1.18 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 2.50-2.60 (2H, m), 3.15-3.40 (4H, m), 3.55-3.65 (1H, m), 3.70-3.90 (3H, m), 4.80-4.95 (1H, m), 6.95-7.15 (4H, m)

実施例59

3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

- 1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに1, 2-ジヒドロ-4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンを用いて実施例26と同様の方法で4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを合成した。ついで4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-イソプロピルフェニル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500 MHz, CD_3OD) δ ppm:

1.20 (6H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 2.75-2.85 (1H, m), 3.15-3.40 (4H, m), 3.55-3.65 (1H, m), 3.70-3.90 (3H, m), 4.80-4.95 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m)

実施例60

4-[(4-クロロフェニル)メチル]-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾール

1, 2-ジヒドロ-4-[(4-メチルチオフェニル)メチル]-5-トリフル
 ルオロメチル-3H-ピラゾール-3-オンの代わりに4-[(4-クロロフェ
 ニル)メチル]-1, 2-ジヒドロ-5-トリフルオロメチル-3H-ピラゾ
 ール-3-オンを用いて実施例26と同様の方法で4-[(4-クロロフェニ
 5 ル)メチル]-3-(2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グル
 コピラノシルオキシ)-5-トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを合成し
 た。ついで4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-3-
 (2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)
 -1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-クロロフェニル)メチル]-3-(2,
 10 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル-β-D-グルコピラノシルオキシ)-5
 -トリフルオロメチル-1H-ピラゾールを用いて、実施例35と同様の方法
 で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

3.20-3.40 (4H, m), 3.55-3.70 (1H, m), 3.75-3.90 (3H, m), 4.80-4.95 (1H,
 15 m), 7.10-7.25 (4H, m)

実施例61

3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-1-プロピルピラゾール

20 3-(β-D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェ
 ニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾール (50mg) 及び炭酸セシウ
 ム (0.20g) のN, N-ジメチルホルムアミド (1ml) 懸濁液に、50℃
 にてヨードプロパン (0.036ml) を加え一晚攪拌した。反応混合物に水
 を加え、ODS固相抽出法 (洗浄溶媒: 蒸留水, 溶出溶媒: メタノール) によ
 25 り精製した。得られた粗精製物をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (溶出
 溶媒: 塩化メチレン/メタノール=8/1) により精製して3-(β-D-グ
 ルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5
 -メチル-1-プロピルピラゾール (28mg) を得た。

^1H -NMR (500 MHz, CD_3OD) δ ppm :

0.87 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.26 (6H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 1.65-1.80 (2H, m), 2.07 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.75-3.95 (3H, m), 4.40-4.60 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.00-7.10 (2H, m)

5

実施例 6 2

1-エチル-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチルピラゾール

10 ヨードプロパンの代わりにヨードエタンを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500 MHz, CD_3OD) δ ppm :

1.26 (6H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 1.29 (3H, t, $J=7.2\text{Hz}$), 2.08 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.75-3.90 (1H, m), 3.96 (2H, q, $J=7.2\text{Hz}$), 4.40-4.60 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.00-7.10 (2H, m)

15

実施例 6 3

1-エチル-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチルピラゾール

20 3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾールの代わりに3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-メトキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾール、ヨードプロパンの代わりにヨードエタンを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

^1H -NMR (500 MHz, CD_3OD) δ ppm :

25 1.29 (3H, t, $J=7.1\text{Hz}$), 2.07 (3H, s), 3.20-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (6H, m), 3.82 (1H, dd, $J=2.0, 12.0\text{Hz}$), 3.90-4.05 (2H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.05-7.15 (2H, m)

実施例 6 4

3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-メトキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 - プロピルピラゾール

- 5 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 H-ピラゾールの代わりに 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-メトキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 H-ピラゾールを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

- 10 0.87 (3H, t, J=7.5Hz), 1.65-1.80 (2H, m), 2.07 (3H, s), 3.35-3.45 (4H, m), 3.60-3.75 (3H, m), 3.73 (3H, s), 3.75-3.85 (1H, m), 3.85-3.95 (2H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.00-7.15 (2H, m)

実施例 6 5

- 15 1 - エチル - 4 - [(4-エトキシフェニル) メチル] - 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 5 - メチルピラゾール

- 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 H-ピラゾールの代わりに 4 - [(4-エトキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1 H-ピラゾール、ヨードプロパンの代わりにヨードエタンを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

- 25 1.28 (3H, t, J=7.4Hz), 1.34 (3H, t, J=7.2Hz), 2.07 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.75-3.85 (1H, m), 3.90-4.00 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.00-7.15 (2H, m)

実施例 6 6

4 - [(4-エトキシフェニル) メチル] - 3 - (β-D-グルコピラノシルオ

キシ) - 5 - メチル - 1 - プロピルピラゾール

3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 H-ピラゾールの代わりに 4 - [(4-エトキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1 H-ピラゾールを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

0.87 (3H, t, J=7.6Hz), 1.34 (3H, t, J=7.1Hz), 1.65-1.80 (2H, m), 2.07 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.81 (1H, dd, J=2.1, 12.1Hz), 3.85-4.05 (4H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.85 (2H, m), 7.00-7.15 (2H, m)

実施例 6 7

1 - エチル - 4 - [(4 - エチルフェニル) メチル] - 3 - (β - D - グルコピラノシルオキシ) - 5 - メチルピラゾール

3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 4 - [(4-イソプロポキシフェニル) メチル] - 5 - メチル - 1 H-ピラゾールの代わりに 4 - [(4-エチルフェニル) メチル] - 5 - メチル - 3 - (β-D-グルコピラノシルオキシ) - 1 H-ピラゾール、ヨードプロパンの代わりにヨードエタンを用いて、実施例 6 1 と同様の方法で標記化合物を合成した。

¹H-NMR (500 MHz, CD₃OD) δ ppm :

1.17 (3H, t, J=7.6Hz), 1.28 (3H, t, J=7.2Hz), 2.06 (3H, s), 2.56 (2H, q, J=7.6Hz), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.75-3.85 (1H, m), 3.90-4.00 (2H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m)

25

実施例 6 8

4 - [(4 - エチルフェニル) メチル] - 3 - (β - D - グルコピラノシルオキシ) - 5 - メチル - 1 - プロピルピラゾール

3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチル-1H-ピラゾールの代わりに4-[(4-エチルフェニル)メチル]-5-メチル-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-1H-ピラゾールを用いて、実施例61と同様の方法で標記化合物を合成し

5 た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

0.87 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.17 (3H, t, $J=7.6\text{Hz}$), 1.65-1.80 (2H, m), 2.06 (3H, s), 2.56 (2H, q, $J=7.6\text{Hz}$), 3.25-3.45 (4H, m), 3.60-3.95 (6H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 7.00-7.15 (4H, m)

10

実施例69

1-ブチル-3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-5-メチルピラゾール

15 ヨードプロパンの代わりにブロモブタンを用いて、実施例61と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

0.92 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.20-1.40 (8H, m), 1.60-1.75 (2H, m), 2.07 (3H, s), 3.25-3.45 (4H, m), 3.55-3.75 (3H, m), 3.81 (1H, dd, $J=2.1, 12.0\text{Hz}$), 3.91 (2H, t, $J=7.2\text{Hz}$), 4.45-4.55 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m),
20 7.00-7.10 (2H, m)

実施例70

3-(β -D-グルコピラノシルオキシ)-4-[(4-イソプロポキシフェニル)メチル]-1-イソプロピル-5-メチルピラゾール

25 ヨードプロパンの代わりに2-ブロモプロパンを用いて、実施例61と同様の方法で標記化合物を合成した。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm:

1.26 (6H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 1.30-1.40 (6H, m), 2.08 (3H, s), 3.15-3.45 (4H, m),

3.55-3.75 (3H, m), 3.78 (1H, dd, $J=2.3, 12.0\text{Hz}$), 4.35-4.45 (1H, m), 4.45-4.55 (1H, m), 5.00-5.10 (1H, m), 6.70-6.80 (2H, m), 7.00-7.10 (2H, m)

試験例 1

5 ヒト SGLT 2 活性阻害作用確認試験

1) ヒト SGLT 2 発現プラスミドベクターの作製

Super Script preamplification system (Gibco-BRL: LIFE TECHNOLOGIES) を用いて、ヒト腎臓由来の total RNA (Ori gene) をオリゴdTをプライマーとして逆転写し、PCR増幅用cDNAライブラリーを作製した。上記ヒト腎cDNAライブラリーを鋳型として、配列番号1及び2で示される下記のオリゴヌクレオチド0702F及び0712Rをプライマーに用い、PCR反応によりヒトSGLT2をコードするDNA断片を増幅した。増幅されたDNA断片をクローニング用ベクターpCR (Invitrogen) にこのキットの標準法に従いライゲーションした。常法により大腸菌HB101株に導入した後、形質転換株をカナマイシン $50\mu\text{g}/\text{ml}$ を含むLB寒天培地で選択した。この形質転換株の1つからプラスミドDNAを抽出精製し、配列番号3及び4で示される下記のオリゴヌクレオチド、0714Fおよび0715Rをプライマーとして用いPCR反応によりヒトSGLT2をコードするDNA断片を増幅した。増幅されたDNA断片を制限酵素XhoI及びHindIIIで消化した後、Wizard purification System (Promega) により精製した。この精製したDNA断片を融合化蛋白質発現用ベクターpcDNA3.1 (-) Myc/His-B (Invitrogen) の対応する制限酵素部位に組み込んだ。常法により大腸菌HB101株に導入した後、形質転換株をアンピシリン $50\mu\text{g}/\text{ml}$ を含むLB寒天培地で選択した。この形質転換株からプラスミドDNAを抽出精製し、ベクターpcDNA3.1 (-) Myc/His-Bのマルチクローニング部位に挿入されたDNA断片の塩基配列を調べた。Wellsらにより報告されたヒトSGL

T2 (Am. J. Physiol., Vol. 263, pp. 459-465 (1992)) に対し、このクローンは1塩基の置換(433番目のイソロイシンをコードするATCがGTCに置換)を有していた。この結果433番目の残基のイソロイシンがバリンに置換したクローンを得た。このカルボキシ末端側最終残基のアラニンの次から配列番号5で示されるペプチドを融合化したヒトSGLT2を発現するプラスミドベクターをKL29とした。

配列番号1 ATGGAGGAGCACACAGAGGC

配列番号2 GGCATAGAAGCCCCAGAGGA

配列番号3 AACCTCGAGATGGAGGAGCACACAGAGGC

10 配列番号4 AACCAAGCTTGGCATAGAAGCCCCAGAGGA

配列番号5 KLGPEQKLISEEDLNSAVDHHHHH

2) ヒトSGLT2一過性発現細胞の調製

ヒトSGLT2発現プラスミドKL29を電気穿孔法によりCOS-7細胞(RIKEN CELL BANK RCB0539)に導入した。電気穿孔法はジーンパルサーII (Bio-Rad Laboratories) を用い、OPTI-MEM I 培地 (Gibco-BRL: LIFE TECHNOLOGIES) 500 μ l に対しCOS-7細胞 2×10^6 個とKL29 20 μ gを含む0.4cmキューベット内で0.290kV、975 μ Fの条件下行った。遺伝子導入後、細胞を遠心分離により回収し細胞1キューベット分に対し1mlのOPTI-MEM I 培地を加え懸濁した。この細胞懸濁液を96ウェルプレートの1ウェルあたり125 μ lずつ分注した。37°C、5%CO₂の条件で一晩培養した後、10%ウシ胎仔血清(三光純薬)、100units/mlペニシリンGナトリウム(Gibco-BRL: LIFE TECHNOLOGIES)、100 μ g/ml硫酸ストレプトマイシン(Gibco-BRL: LIFE TECHNOLOGIES)を含むDMEM培地(Gibco-BRL: LIFE TECHNOLOGIES)を1ウェルあたり125 μ lずつ加えた。翌日まで培養しメチルー α -D-グルコピラノシド取り込み阻害活性の測定に供した。

3) メチルー α -D-グルコピラノシド取り込み阻害活性の測定

試験化合物をジメチルスルホキシドに溶解し、取り込み用緩衝液 (140 mM塩化ナトリウム、2 mM塩化カリウム、1 mM塩化カルシウム、1 mM塩化マグネシウム、5 mMメチルー α -D-グルコピラノシド、10 mM2-[4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル] エタンスルホン酸、5 mM

5 トリス (ヒドロキシメチル) アミノメタンを含む緩衝液 pH 7.4) で希釈し、阻害活性測定用の検体とした。ヒト SGLT 2-過性発現 COS-7 細胞の培地を除去し、1 ウェルあたり前処置用緩衝液 (140 mM塩化コリン、2 mM塩化カリウム、1 mM塩化カルシウム、1 mM塩化マグネシウム、10 mM2-

10 - [4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル] エタンスルホン酸、5 mMトリス (ヒドロキシメチル) アミノメタンを含む緩衝液 pH 7.4) を200 μ l 加え、37°Cで10分間静置した。前処置用緩衝液を除去し、再度同一緩衝液を200 μ l 加え、37°Cで10分間静置した。作製した検体52

15 5 μ l に7 μ l のメチルー α -D- (U-14C) グルコピラノシド (Amersham Pharmacia Biotech) を加え混合し、測定用緩衝液とした。対照群用に試験化合物を含まない測定用緩衝液を調製した。また試験化合物非存在下並びにナトリウム非存在下の基礎取り込み測定用に塩化ナトリウムに替えて140 mMの塩化コリンを含む基礎取り込み測定用緩衝液を同様に調製した。前処置用緩衝液を除去し、測定用緩衝液を1 ウェルあたり7

20 5 μ l ずつ加え37°Cで2時間静置した。測定用緩衝液を除去し、洗浄用緩衝液 (140 mM塩化コリン、2 mM塩化カリウム、1 mM塩化カルシウム、1 mM塩化マグネシウム、10 mMメチルー α -D-グルコピラノシド、10 mM2-[4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル] エタンスルホン酸、5 mMトリス (ヒドロキシメチル) アミノメタンを含む緩衝液 pH 7.4)

25 を1 ウェルあたり200 μ l ずつ加えすぐに除去した。この洗浄操作をさらに2回行い、0.2 N水酸化ナトリウムを1 ウェルあたり75 μ l ずつ加え細胞を可溶化した。可溶化液をピコプレート (Packard) に移し、150 μ l のマイクロシンチ40 (Packard) を加えマイクロプレートシンチレ

ーションカウンター トップカウント (Packard) にて放射活性を計測した。対照群の取り込み量から基礎取り込み量を差し引いた値を100%とし、取り込み量の50%阻害する濃度 (IC₅₀ 値) を濃度-阻害曲線から最小二乗法により算出した。その結果は以下の表1の通りである。

5

[表1]

試験化合物	IC ₅₀ 値 (nM)
実施例 3 5	1 8 1
実施例 3 6	4 4 1
実施例 3 7	3 4 6
実施例 3 8	7 0 2
実施例 3 9	1 8 5
実施例 4 3	8 4
実施例 4 4	5 0 9
実施例 4 5	4 4 1
実施例 4 6	6 7 9
実施例 4 8	4 1 5
実施例 4 9	3 8 3
実施例 5 2	8 3 5
実施例 5 5	2 8 0
実施例 5 6	1 9 0
実施例 5 8	6 3 4
WAY - 123783	> 1 0 0 0 0 0

試験例 2

尿糖排泄促進作用確認試験

10 方法 A)

実験動物として一晩絶食したSD系ラット（SLC、雄性5週齢、120～150g）を用いた。試験化合物25.40mgをエタノール762 μ lに懸濁させ、ポリエチレングリコール400 3.048mlおよび生理食塩水3.81mlを加え溶解し、3.3mg/ml溶液とした。この溶解液の一部を生理食塩水：ポリエチレングリコール400：エタノール=5：4：1にて希釈し、3.3、1、0.33（mg/ml）の各濃度の溶解液を調製した。これらを3ml/kgの用量（10、3、1mg/kg）でラットに対し皮下投与した。対照群用に生理食塩水：ポリエチレングリコール400：エタノール=5：4：1のみを3ml/kgの用量で皮下投与した。皮下投与直後に200g/lグルコース水溶液を10ml/kgの用量（2g/kg）で経口投与した。皮下投与は26G注射針および1mlシリンジを用いて行った。経口投与はラット用ゾンデおよび2.5mlシリンジを用いて行った。1群あたりの頭数は3頭とした。投与終了後から代謝ケージにて採尿を行った。採尿時間はグルコース投与後から4時間とした。採尿終了後、尿量を記録し、尿中に含まれるグルコースの濃度を測定した。グルコース濃度の定量は臨床検査キット：グルコースBテストワコー（和光純薬）を用いて行った。尿量と尿中グルコース濃度から4時間での1個体あたりの尿糖排泄量を求めた。

方法B)

実験動物として一晩絶食したSD系ラット（SLC、雄性7週齢、180～220g）を用いた。試験化合物10mgをエタノール300 μ lに懸濁または溶解させ、ポリエチレングリコール400 1.2mlおよび生理食塩水1.5mlを加え溶解し、3.3mg/ml溶液とした。この溶解液の一部を生理食塩水：ポリエチレングリコール400：エタノール=5：4：1にて希釈し、3.3、0.33、0.033（mg/ml）の各濃度の溶解液を調製した。ラットの体重を測定し、試験化合物溶液を3ml/kgの用量（10、1、0.1mg/kg）で尾静脈内投与した。対照群用に生理食塩水：ポリエチレングリコール400：エタノール=5：4：1のみを3ml/kgの用量で尾静脈内投与した。尾静脈内投与直後に200g/lグルコース水溶液を10ml/kg

51

kgの用量(2g/kg)で経口投与した。尾静脈内投与は26G注射針および1mlシリンジを用いて行った。経口投与はラット用ゾンデおよび2.5mlシリンジを用いて行った。1群あたりの頭数は3頭とした。グルコース投与終了後から代謝ケージにて採尿を行った。採尿時間はグルコース投与24時間とした。採尿終了後、尿量を記録し、尿中に含まれるグルコース濃度を測定した。グルコース濃度の定量は臨床検査用キット：グルコースBテストワコー(和光純薬)を用いて行った。尿量、尿中グルコース濃度および体重から24時間での体重200gあたりの尿糖排泄量を求めた。

その結果は以下の表2の通りである。

10

[表2]

試験化合物	方法	用量 (mg/kg)	尿糖排泄量 (mg)
実施例35	B	0.1	16
		1	74
		10	188
実施例45	A	1	22.1
		3	83.2
		10	153.3
	B	0.1	2
		1	45
		10	132

試験例3

急性毒性試験

15 方法A)

試験化合物に0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液を加え、100mg/mlの懸濁液とした。実験動物としては、4時間絶食した雄性6

～7週齢ICR系マウス（日本クレア，28～33g，1群5例）を用いた。
上記懸濁液を10ml/kg（1000mg/kg）の用量で上記実験動物に
経口投与し、24時間観察した。

方法B)

- 5 試験化合物に生理食塩水：ポリエチレングリコール400：エタノール＝5：
4：1を加え、200mg/mlの懸濁液とした。実験動物としては、4時間
絶食した雄性5週齢ICR系マウス（日本クレア，26～33g，1群5例）
を用いた。上記懸濁液を3ml/kg（600mg/kg）の用量で上記実験
動物に皮下投与し、24時間観察した。
- 10 その結果は以下の表3の通りである。

[表3]

試験化合物	方法	死亡例
実施例35	B	0/5
実施例45	A	0/5

[産業上の利用可能性]

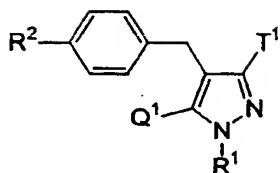
- 15 本発明の前記一般式（I）で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘
導体およびその薬理学的に許容される塩は、ヒトSGLT2活性阻害作用を有
し、腎臓での糖の再吸収を抑制し過剰な糖を尿中に排泄させることにより、優
れた血糖低下作用を発揮する。それ故、本発明の前記一般式（I）で表される
グルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩
20 を有効成分として含有させることにより優れた糖尿病、糖尿病性合併症、肥満
症などの予防または治療剤を提供することができる。

また、前記一般式（V）および（V I I）で表される化合物およびその塩は、
前記一般式（I）で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩を製造
する際の間体として重要であり、この化合物を経由することにより、前記一

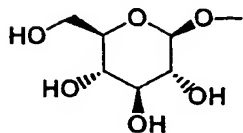
般式 (I) で表される本発明の化合物またはその薬理学的に許容される塩を容易に製造することができる。

請求の範囲

1. 一般式

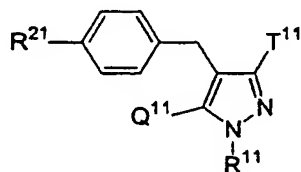


- 5 (式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^1 および T^1 はどちらか一方が式

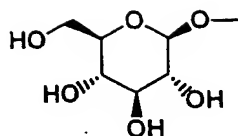


- で表される基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩。
- 10

2. 一般式

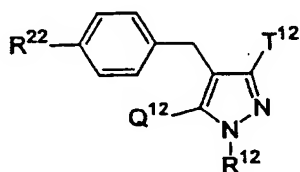


- 15 (式中の R^{11} は水素原子または炭素数1～3の直鎖状又は枝分かれ状のアルキル基であり、 Q^{11} および T^{11} はどちらか一方が式

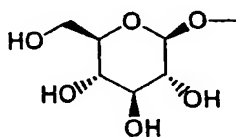


- で表される基であり、他方が炭素数 1 ～ 3 の直鎖状又は枝分かれ状のアルキル基であり、 R^{21} は炭素数 1 ～ 4 の直鎖状又は枝分かれ状のアルキル基、炭素数 1 ～ 3 の直鎖状又は枝分かれ状のアルコキシ基または炭素数 1 ～ 3 の直鎖状又は枝分かれ状のアルキルチオ基である) で表される請求項 1 記載のグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩。

3. 一般式



- 10 (式中の R^{12} は水素原子、エチル基、プロピル基またはイソプロピル基であり、 Q^{12} および T^{12} はどちらか一方が式



- 15 で表される基であり、他方がメチル基であり、 R^{22} はエチル基、エトキシ基、イソプロポキシ基またはメチルチオ基である) で表される請求項 2 記載のグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩。

4. 請求項 1、2 または 3 記載のグルコピラノシルオキシピラゾール誘導体またはその薬理学的に許容される塩を有効成分としてなる医薬組成物。

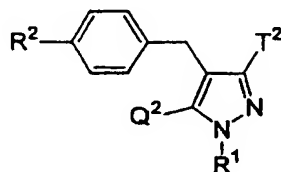
5. ヒト SGLT 2 活性阻害剤である請求項 4 記載の医薬組成物。

6. 糖尿病の予防又は治療剤である請求項 4 記載の医薬組成物。

5

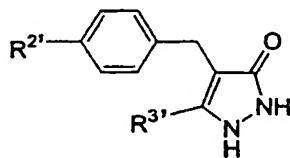
7. 肥満症の予防又は治療剤である請求項 4 記載の医薬組成物。

8. 一般式



- 10 (式中の R^1 は水素原子または低級アルキル基であり、 Q^2 および T^2 はどちらか一方が 2, 3, 4, 6-テトラ-O-アセチル- β -D-グルコピラノシルオキシ基であり、他方が低級アルキル基またはハロ低級アルキル基であり、 R^2 は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハロ低級アルキル基またはハロゲン原子である) で表されるグルコピラノシルオキシ
- 15 ピラゾール誘導体またはその塩。

9. 一般式



- (式中の $R^{2'}$ は低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、ハ
- 20 ロ低級アルキル基またはハロゲン原子であり、 $R^{3'}$ は低級アルキル基である)

で表されるベンジルピラゾール誘導体またはその塩。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/05678

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl.⁷ C07H17/02, C07D231/20, A61K31/7056, A61P3/04, 3/10

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl.⁷ C07H17/02, C07D231/20, A61K31/7056, A61P3/04, 3/10

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
CAPLUS (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US, 524111, A (Department of Medicinal Chemistry and Analytical Chemistry), 28 December, 1993 (28.12.93) & US, 5264451, A	1-9
A	US, 5264451, A (American Home Products Corp.), 23 November, 1993 (23.11.93) & US, 5274111, A	1-9
A	KUEBAL B., 'Simple synthesis of 4-(heteroaryl methyl) phenols and their acylation.' Liebig's Ann. Chem., 1980, Vol.9, pages 1392 to 1401 & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN.94 : 47172	9
A	PEERCE B.E., 'Molecular mechanism of two noncompetitive inhibitors of sodium-glucose cotransporter : comparison of DCCD and PCMB.', Am. J. Physiol., 1993, Vol.264, No.2, Pt.1, pages G300 to G305 & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN.118 : 228571	5-7

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
06 November, 2000 (06.11.00)Date of mailing of the international search report
14 November, 2000 (14.11.00)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl¹ C07H17/02, C07D231/20, A61K31/7056, A61P3/04, 3/10

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl¹ C07H17/02, C07D231/20, A61K31/7056, A61P3/04, 3/10

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	US, 5274111, A (Department of Medicinal Chemistry and Analytical Chemistry) 28. 12月. 1993 (28. 12. 93) & US, 5264451, A	1-9
A	US, 5264451, A (American Home Products Corp.) 23. 11月. 1993 (23. 11. 93) & US, 5274111, A	1-9

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

06. 11. 00

国際調査報告の発送日

14.11.00

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

森井 隆信

印

4 C

9455

電話番号 03-3581-1101 内線 3451

C (続き) 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	KUEBAL B., 'Simple synthesis of 4-(heteroarylmethyl)phenols and their acylation.' Liebigs Ann. Chem., 1980, Vol.9, pages 1392 to 1401 & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN. 94:47172	9
A	PEERCE B. E., 'Molecular mechanism of two noncompetitive inhibitors of sodium-glucose cotransporter: comparison of DCCD and PCMB.' Am. J. Physiol., 1993, Vol.264, No.2, Pt.1, pages G300 to G305 & Database CAPLUS on STN, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY (ACS), (Columbus, OH, USA), DN. 118:228571	5-7